

---

# 鎮魂歌をアナタに

村瀬千理

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鎮魂歌をアナタに

### 【Nコード】

N4810C

### 【作者名】

村瀬千理

### 【あらすじ】

これは罪人と世界の再生物語。忌子と呼ばれた復讐者が一人の少女と世界に抗い続けた、語られざる物語。

## 序章（前書き）

初ファンタジーです！

## 序章

### 序章

これはある愚者と戦争の物語。

この世界は、二つの国がソリアーデ大陸の支配を賭けた戦争が続いていた。

強大な軍事力で近隣諸国を吸収し続ける『ロスタロス』

平和を愛し、『ロスタロス』と相対続ける『アームステル』

後に“聖魔戦争”と呼ばれる戦い。

二国は持ちつるもの全てを賭け、戦い続けた。

ロスタロスはこの世界を支配するために。

アームステルはこの世界の平和をかなえるために。

幾千幾万の武器・魔法・知恵　そして、命。

犠牲になったモノは数知れず、積み上げられた屍は数え切れない。

魔族を従える秘法、“ソロモン”で魔族を操るロスタロス軍の力がすさまじく、戦争終盤にはアームステル王国は次第に追い詰められていった。

ロスタロス軍がアームステルの王都にまで迫り、誰もがアームステルの敗北に嘆き悲しんだそのとき、一人の少年が戦況を覆した。

彼は古くから伝わる魔剣と、己の身に宿る呪われた力を駆使し、修羅のごとくロスタロス軍と戦い続けた。

三日三晩の死闘の末、多くの死体が転がる戦場に彼だけが君臨していた。

肌も髪も全て血で赤く染まり、手にもつ大剣だけが輝きを失っていないかった。

その姿はまさに狂戦士。

彼は畏怖と尊敬の念を込められ、“修羅ノ王”と呼ばれた。

## 1章 鬼神

こんなはずじゃなかった。

盗賊段の長、ガイ・イールはぼつりとつぶやいた。

五十人はいた仲間が、一人の青年によって、数分で五人になってしまった。

俺たちは今日、裏口から領主の屋敷に入り込んで奇襲をし、領主ともども皆殺しにして、金銀財宝を奪い取る計画だった。

準備だつて余念は無かった、計画もぼつちりだった。

門番を連れ去り、拷問で城の構造や秘密の隠し道をはかせた。

警備が手薄になる深夜、狙うならその時間帯しかない。

隠し道からの浸入も成功し、士気も上がってやれると皆が確信していた。

だがそこに、奴は悠然と立っていた。

白い仮面で顔を隠し、長い髪を後ろで束ね、黒のコートを身に羽織り、仮面の下から見える瞳で俺たちを見据えている。

その金色の瞳から発せられる、静かで研ぎ澄まされた殺気に、俺たちは動くどころか喋る事さ

え出来なかった。

奴は刀身に呪文が刻み込まれた剣を、鞘から引き抜き俺らのほうに突っ込んできた。

前衛にいた二十人がたった数秒で斬り伏せられた。青年に斬りかかった奴がいたが、そいつは頭を掴まれ遠くへ投げ飛ばされた。

銃を放った者もいたが、青年はそれを回避し玉は別の男に当たる。

「八尾ノ四式。焼き尽くせ、“炎華”」

青年が詠唱を終えて途端、剣は目が眩む程の光を放ち、刀身が燃え盛る大剣に姿を変えた。

奴は天高く飛翔し、男たちに向けて黒き炎の斬撃波を放った。

斬撃波は下にいた者たちに直撃し、多くの者が戦闘不能になった

青年は地面に降り立ち、獲物を求める獅子のように残った者たちを斬り倒していく。

その姿はまさに修羅、戦うためだけに存在する鬼神。

「ぜ、全員固まれ!!」

五十人いた男たちも、もはや十分の一。

リーダー格らしき男が、男は生き残った者たちに号令をかける。

それぞれ背中を合わせ、極力死角を出さないようにする。

固まる男たちに向けて疾走する青年に、男たちは銃弾を一斉に浴びせた。

(やったか!?)

しかし、そこには少年の姿は無く銃弾は大地にめり込んでいた。

「きつ、消えたぞ!! 探せ! さがせえ!!」

男たちが円陣をくんで八方を見渡す。

ここは平原で、木などの障害になるようなものは無く、隠れる場所などありはしない。

しかし青年の姿は、どこにも見えない。

「どこ行ったッ!! 出てこい糞ヤロウ!!」

返答などあるはずの無いと思っていた男の叫びに、

「何だ？」

男たちの背後、円陣の中心から聞こえてきた。

それを男たちが理解する暇も無く、ガイ以外の全員が足を斬られ地に伏せた。

青年は刀についた血をふるい落とし、明確な殺意がこめられたその金色の瞳を向けた。

その視線に、要は武器を地面に落とし、地に崩れ落ちた。

体の震えが止まらない。

寒い、まるで凍りに閉じ込められたように凍えそつだ。

青年はガイの下にゆっくりと近づき、剣の柄で頭を殴り気絶させた。

「また、ガセだったか」

眩く青年の瞳は憂いを秘めていた。

まるで愛しい人を思う乙女のような、  
儂い瞳を月に向けた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4810c/>

---

鎮魂歌をアナタに

2010年10月11日16時56分発行